

○議長（高橋正博君）

決算特別委員長 鈴木美香君。

○決算特別委員長（鈴木美香君）

おはようございます。

9月定例会で本委員会に付託されました「令和3年度土庄町一般会計及び特別会計の歳入歳出決算の認定」について、閉会中に審査した結果を報告いたします。

本委員会は、10月4日から11日まで開催し、初日には長門監査委員より、令和3年度決算審査の意見をいただくとともに、山本副町長から決算全体の概要について説明を受けました。

概要としては、令和3年度決算の一般会計と特別会計を合わせた歳入総額は158億4586万円で、前年度比9.2%減、歳出総額は142億9791万円で、前年度比10.6%減です。

一般会計の歳入は113億2492万円で、前年度比13.3%減、歳出は100億474万円で、前年度比14.7%減です。形式収支は、13億2017万円の黒字となりましたが、前年度からの繰越金や財政調整基金の取り崩しを除いた実質単年度収支は、約2億2716万円の赤字となりました。

歳入の主なものとして町税14億4026万円は、固定資産税の減、個人町民税の減、法人町民税の減、入湯税の減などにより、前年度比4.6%減となっています。

また、普通交付税33億2883万円は、地域デジタル社会推進費の創設、臨時経済対策費・臨時財政対策債償還基金費の創設、公債費の増などにより、前年度比13.8%の増、国庫支出金約11億8484万円は、住民税非課税世帯等臨時給付金の皆増、子育て世帯臨時給付金の皆増、特別定額給付金補助金の皆減、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減少などにより、前年度比52.2%の減となりました。

歳出の主なものとして総務費23億6252万円は、ふるさと納税推進事業費の増の一方、特別定額給付金事業費の皆減、土庄町庁舎建設事業費の減などにより、前年度比45.7%の大幅な減となりました。

また、民生費24億6868万円は、四海こども園建設事業費の増、子育て世帯臨時特別給付金事業費の増などにより、前年度比21.0%の増です。

衛生費12億800万円は、二酸化炭素排出抑制対策事業費の減、御影浄苑維持管理費の減、病院企業団負担金等の減などにより、前年度比24.1%の減です。

農林水産業費2億9750万円は、漁港改良事業費の増、農林水産事業者への活性化緊急支援事業補助金の皆増、ため池ハザードマップ支援事業費の増などにより、前年度比13.6%の増です。

商工費 4 億 4035 万円は、新型コロナウイルス感染症対策プレミアム付き商品券事業費の皆増、新型コロナウイルス感染症対応営業継続応援金事業費の皆増などにより、前年度比 23.6%の増です。

土木費 8 億 5999 万円は、大谷ポンプ場新設・下水道長寿命化事業費の増、町道新設改良事業費の増、県営港湾整備事業費負担金の増などにより、前年度比 9.5%の増です。

消防費 4 億 4454 万円は、ポンプ車購入費の皆増、水道企業団消火栓維持管理負担金の増の一方、デジタル防災行政無線整備事業費の減などにより、前年度比 3.9%の減です。

教育費 6 億 9438 万円は、GIGA スクール構想に係る事業費の皆減、スクールバス購入費の減などにより、前年度比 13.8%の減です。

災害復旧費 189 万余は、災害被害が少なく、前年度比 80.1%の減です。

公債費 11 億 1099 万円は、長期債償還元金は 1 億 6272 万 8 千円の増、利子は 11 万 6 千円の減で、前年度比 17.1%の増です。

次に、特別会計の主なものについて、国民健康保険事業の歳出決算額は、18 億 6221 万円で、やすらぎプラザ空調改修工事などにより、前年度比 2.2%の増です。

港湾整備事業の歳出決算額は 3096 万円で、前年度繰上充用金等の減により、前年度比 6.2%の減です。

介護保険事業の歳出決算額は 19 億 6487 万円で、介護サービス給付費の増により、前年度比 0.4%の増です。

福祉サービス事業の歳出決算額は 7915 万円で、職員の退職などの減により、前年度比 9.9%の減です。

後期高齢者医療事業の歳出決算額は 2 億 5428 万円で、保健事業などの一部が一般会計に移管されたことにより、前年度比 2.4%の減となっています。

概要に続いて、各課の審査においては、決算額や成果など詳細な説明を受け、質疑を経て、認定の賛否を問いました。また、本年度の重要施策についても意見交換を行いました。

当委員会としては、慎重に審査した結果、全ての決算を認定すべきものと決したことを、ここにご報告いたします。

次に、審査の過程で各委員から出された質疑・意見などを所管課ごとに報告します。

まず、総務課です。

委員から、消防団員の報酬は、いつから個人に支払われているのかの質問に、国から消防団員に直接支給するよう通知があり、令和 4 年度から直接支給していると回答がありました。また、コミュニティ助成は毎年、定期的に受けられる

のかとの質問に、コミュニティ助成事業の目的に沿ったものであれば、自治会から申請をいただき、宝くじ振興協会に採択されたものについて助成していると回答がありました。

次に、企画財政課です。

空き家バンクで移住者に好まれる物件の傾向について質問があり、賃貸物件、即居住が可能、駐車場付きや家庭菜園ができるスペース、利便性のいい場所が挙げられ、最近ではペット飼育可能な物件等を求める方が増えているとの回答がありました。また、バスの補助金についての質問があり、県からの補助金は、利用者状況が悪化するほど補助率が下がるので、バスに乗ってもらえるよう広報していると回答がありました。また、結婚新生活支援事業を町の事業として検討してほしいといった意見がありました。

次に、健康福祉課です。

委員から福祉関係の事業が増えているが、職員数は足りているか、事業は回っているのかとの質問に、保健師、社会福祉士は公募してもこない状況で、一杯一杯で業務を行っているとの回答がありました。小豆島ナースサポートセンターの実績についての質問に、問い合わせが 95 件、同センターを介して 54 人が就職したとの回答がありました。また、敬老事業の金額を見直すべきといった意見がありました。

次に、税務課です。

町民税にコロナの影響があったのかとの質問に、町民税が 1400 万円減っている要因は、納税義務者数の減と考えられるが、コロナの影響がでているかどうか分析はできていない。また、相続財産管理人は、司法書士もできるので経費節減のために検討してはどうかとの意見がありました。

次に、教育総務課です。

委員から奨学金の返還について質問があり、大学、専門学校を卒業し、1 年間は保留期間があり、その後借りた期間の倍の期間で返済する。10 年以上前の未納が 1 件あるとの回答がありました。

次に、生涯学習課です。

委員から、残石記念公園の運営について質問があり、冬場の運営が厳しい上に、コロナの影響もあるが、できることは職員も一緒にやっていく。また、働く婦人の家運営費の国庫補助金返還についての質問があり、目的外使用のために国庫補助金を返還したとの回答がありました。

次に、住民環境課です。

委員から、海上監視活動について質問があり、北浦漁協に依頼し、御影浄苑からの海洋流出、のり面等の危険確認を海上から行っているとの回答がありました。また、御影運動公園維持管理委託について質問があり、琴塚自治会に公園全

体の管理を委託しているとの回答がありました。

委員から遺骨残骨灰に混じっている金・銀・パラジウムなどを回収して町の財源に活用できないかとの質問に、遺体の所有権の問題もあり、今後研究させていただくとの回答がありました。

次に、農林水産課です。

委員から次世代産業育成モデル事業について廃止はできないかとの質問があり、国費を返還しなければならないので慎重に検討していると回答があり、また、今後はどのようにしていくのかとの質問に、町、県のホームページ、金融機関、大学に周知し何件かの見学はあった。今後も公募を続けていくとの回答がありました。そのほか有害鳥獣の被害は減少傾向にあるのかとの質問に、令和2年、3年については減少傾向にあるとの回答がありました。

次に、建設課です。

委員から耐震リフォームの補助金がなぜ商品券なのかとの質問があり、地元業者で使用してほしいので商工会の商品券にしていると回答がありました。

次に、商工観光課です。

地域おこし企業人について質問があり、総務省の地域おこし企業人交流プログラムを活用し、民間企業から社員を受け入れ、修学旅行などの教育旅行の誘客促進などに努め、成果を残したと回答がありました。

また、地域資源活性化事業のモンベルとの連携事業についての質問に、土庄町の自然とアウトドアの魅力を発信するため、アウトドアブランドのモンベルのホームページや会員誌などを活用し、情報発信を行ったほか、ハイキングイベントを実施したと回答があり、豊島のレンタサイクル事業は民間事業者が運営できないのかとの質問に、可能な民間事業者があれば協議をしたいと思うが、収益によってはやめてしまう可能性があるため、ある程度行政が入っているほうがよいと思うとの回答がありました。

そのほか小瀬、千軒は景色が良く道路が広いので今後、活用してほしいという意見や職員の残業が多いなら、事業の見直しを考えてほしいとの意見がありました。

以上で、当委員会に付託されました決算認定の審査結果の報告を終わります。